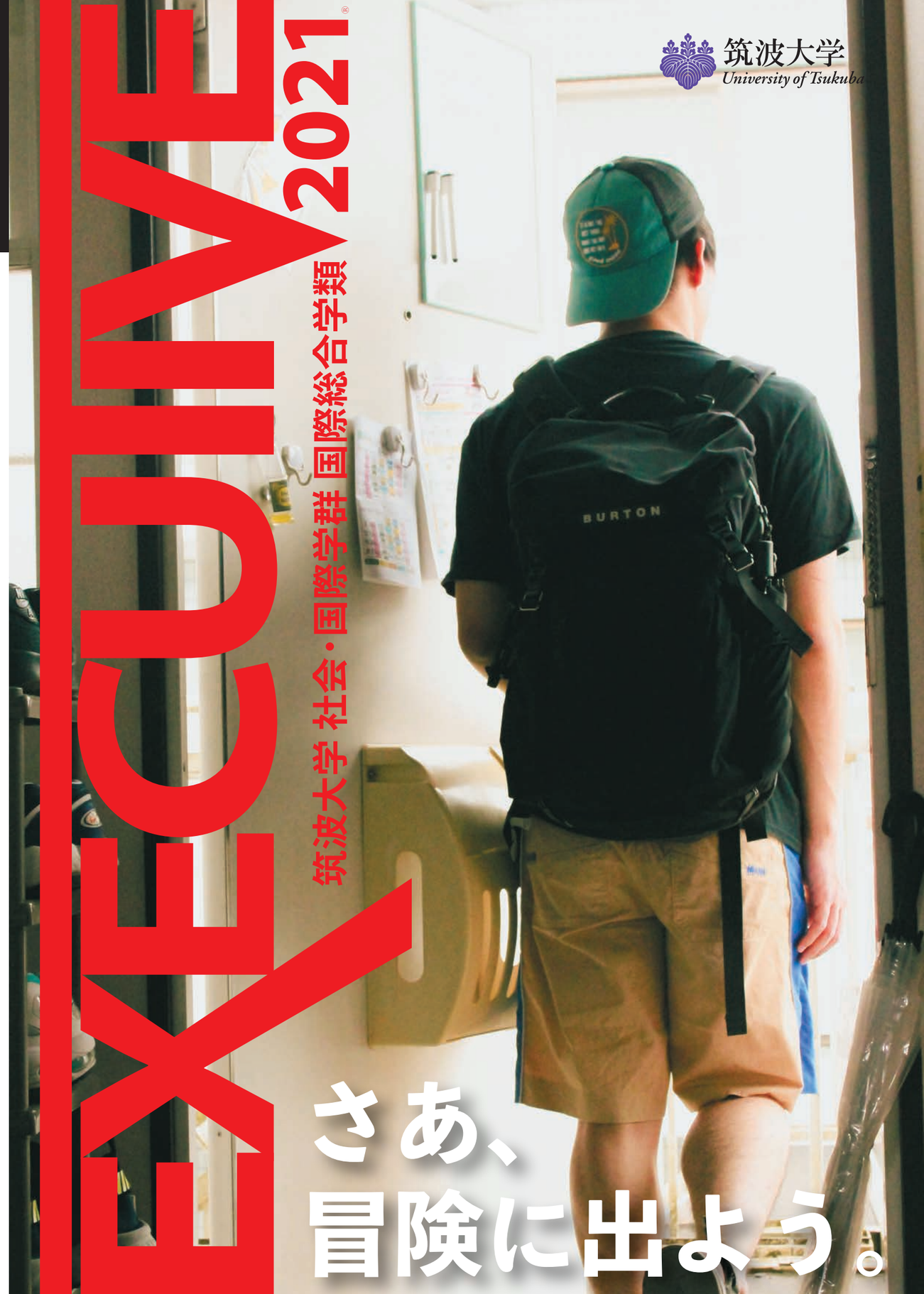
明日の
EXECUTIVE 2021

筑波大学
University of Tsukuba

University of Tsukuba

2021年度版
発行日：2021年3月1日　発行：筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類　発行人／編集責任者：藩 亮　編集：大友康史 茅根由佳 内野紀惠 内野真紀 加藤優弥 豊岸歌 三浦孝紀
印刷／製本：朝日印刷株式会社　お問い合わせ：国際総合学類事務室 〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1　Tel：029-853-6010　HP：http://www.kokusai.tsukuba.ac.jp/

©2021 国際総合学類 無無断転載



筑波大学
University of Tsukuba

EXECUTIVE 2021

筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類

さあ、
冒険に出よう。

明日の EXECUTIVE

2021

もくじ

01 学類長挨拶

02 カリキュラム紹介

03 分野紹介

04 教員紹介

05 留学体験記

06 ボランティア・インターン

07 OB/OG メッセージ

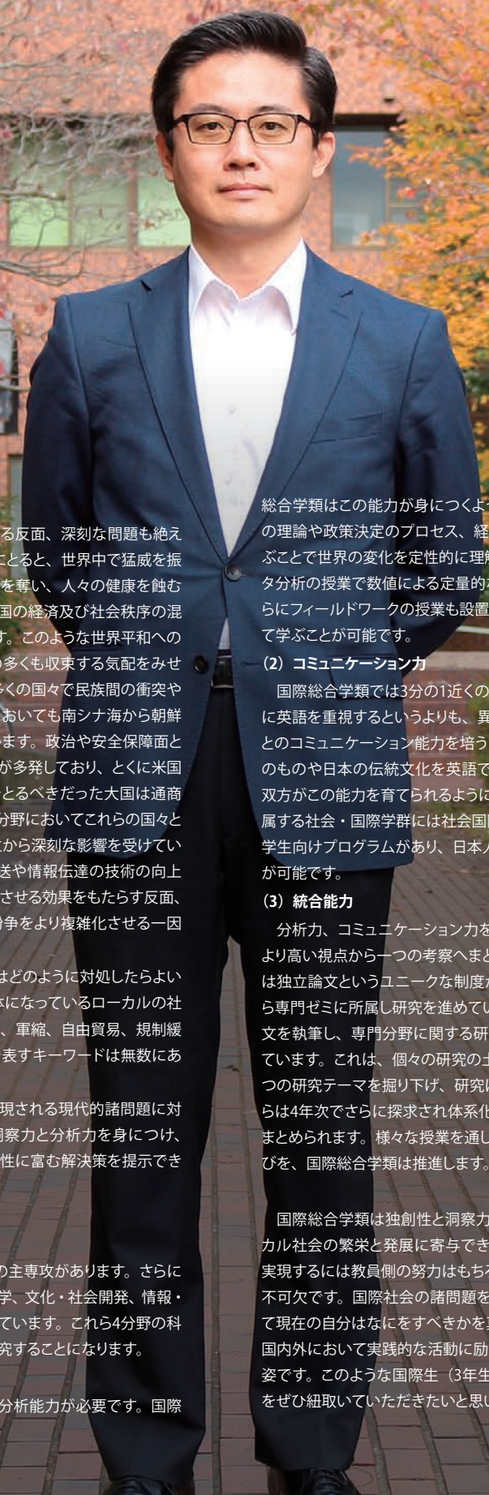
08 学生紹介

09 キャンパスライフ

01 学類長挨拶

筑波大学
社会・国際学群
国際総合学類
学類長

潘 亮



「国際人」の育成

今日の国際社会は希望とエネルギーに満ちている反面、深刻な問題も絶えず作り出しています。現在進行中の国際情勢を例にとると、世界中で猛威を振るっているコロナウィルス感染症は単に多くの人命を奪い、人々の健康を蝕む公衆衛生上の一大危機を惹起しただけでなく、各国の経済及び社会秩序の混乱、ひいては国家間の対立の激化を誘発しています。このような世界平和への新たな脅威が現出しつつあるなか、従来の紛争の多くも収束する気配をみせません。アフリカ大陸、中東ないし東南アジアの多くの国々で民族間の衝突やテロリズムが依然として蔓延しており、東アジアにおいても南シナ海から朝鮮半島までいたるところで紛争の火種がくすぶっています。政治や安全保障面と連動する形で経済分野においても重大な紛争事案が多発しており、とくに米国や中国など国際経済秩序の維持にイニシアチブをとるべきだった大国は通商政策をめぐって激突を繰り返しています。あらゆる分野においてこれらの国々と密接な関係を有する日本やＥＵなどもこうした対立から深刻な影響を受けていることは言うまでもありません。かくして、交通輸送や情報伝達の技術の向上は国境を超える人、モノ、そして金の移動を容易にさせる効果をもたらす反面、国際問題と国内問題の境界を曖昧にさせ、国際紛争をより複雑化させる一因になっています。

この混沌とした国際情勢に直面しつつ、私たちはどのように対処したらよいのでしょうか。グローバル世界及びそれと表裏一体になっているローカルの社会や人間はどこへ向かうのでしょうか。貧困、差別、軍縮、自由貿易、規制緩和、情報の氾濫など、昨今の国際社会の諸問題を表すキーワードは無数にあり、しかも相互に複雑に絡み合っています。

国際総合学類は、これらの言葉を含め様々に表現される現代的諸問題に対し、グローバル、ローカル双方の視点から深い洞察力と分析力を身につけ、豊かなコミュニケーション力を通して先見性と独自性に富む解決策を提示できる「国際人」の育成を目指しています。

国際総合学類での学び

国際総合学類は国際関係学と国際開発学の2つの主専攻があります。さらにその2つを横断する形で、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境という、文と理にまたがる4つの分野が存在しています。これら4分野の科目群を広く学び、その上で1つの専門分野を深く追究することになります。

（1）分析力

日々激動する国際情勢を読み解くには、確かな分析能力が必要です。国際総合学類はこの能力が身につくようなカリキュラムを用意しています。政治学の理論や政策決定のプロセス、経済動向、またはその背景にある文化等を学ぶことで世界の変化を定性的に理解できるようにすると同時に、統計学やデータ分析の授業で数値による定量的な分析能力が身につくように養成します。さらにフィールドワークの授業も設置されており、どう分析するのかを実践を通して学ぶことが可能です。

（2）コミュニケーション力

国際総合学類では3分の1近くの授業が英語で行われています。これは単純に英語を重視するというよりも、異なる文化背景による異なる言語上での他者とのコミュニケーション能力を培うためです。その中にはディスカッション中心のものや日本の伝統文化を英語で読み解く授業もあり、留学生・日本人学生双方がこの能力を育てられるように設置されています。また、国際総合学類が属する社会・国際学群には社会国際教育プログラムという全科目英語による留学生向けプログラムがあり、日本人学生も同プログラムの科目を履修することが可能です。

（3）統合能力

分析力、コミュニケーション力を培った上で最後はそれらを動員し、問題をより高い視点から一つの考察へまとめ上げることが大切です。国際総合学類には独立論文というユニークな制度があります。通常、すべての学生は3年次から専門ゼミに所属し研究を進めていくことになります。そして3年次末に独立論文を執筆し、専門分野に関する研究の中途段階における成果発表の機会としています。これは、個々の研究の土台作りであり、学生が長いスパンの中で一つの研究テーマを掘り下げ、研究により深みを持たせるためのものです。これらは4年次でさらに探求され体系化されて最終的には卒業論文（必修）としてまとめられます。様々な授業を通して培った総合的な力を専門性につなげる学びを、国際総合学類は推進します。

国際総合学類は独創性と洞察力を有し、国際社会及びそれと連動するローカル社会の繁栄と発展に寄与できる人材の育成を目指していますが、それを実現するには教員側の努力はもちろんのこと、学生自身の主動的な取り組みも不可欠です。国際社会の諸問題をどう見るのか、それらの問題の解決に向けて現在の自分はなにをすべきかを真剣に考えながら、学問に精進し、その上、国内外において実践的な活動に励む、それが国際総合学類生（「国際生」）の姿です。このような国際生（3年生）たちによって企画・編集されている本誌をぜひ紐取いていただきたいと思います。

02 カリキュラム紹介

専門ゼミナール・卒業論文

国際学ゼミナールI
国際学ゼミナールII
独立論文
卒業論文

インターンシップ

インターンシップI
インターンシップII
キャリアプランニング
海外研修I
海外研修II

国際関係学主専攻

アジア政治
ロシア政治
現代日本外交史
現代中国研究
国際組織法
国際法I
国際法II
国際政治学
国際機構論
国際相互依存論

国際金融論
公共政策分析
国際文化論
言語人類学
野外調査法
人類学特講
日本政治思想
政治外交史
アメリカ外交史
憲法I
憲法II

国際通商論
アジアの国際関係
東アジア国際関係史
ヨーロッパの国際関係
ロシア・東欧の国際関係
日本政治
ヨーロッパ政治
中央アジアの国家と社会
外交法政策論
国際貿易論

行政学I
公共経済学
ヨーロッパ社会経済史
現代社会論
スポーツ文化論
安全保障論
ミクロ経済学
マクロ経済学
ジャパニーズ・エコノミー
基礎経済数学
経済数学

Globalization and Development
Public Policy
Transnational Social Policy
Comparative Economics
Japanese Foreign Policy
Japan and the World
Mathematical Economics
History of Economic Thought

国際開発協力論
国際開発計画論
地域紛争論
市民社会論

国際開発学主専攻

計量経済学
国際開発論
国際開発協力論
国際開発計画論
開発途上国における諸問題
北アフリカの経済と社会
開発人類学
地域開発論
教育開発論
途上国の教育と国際協力

環境政策論
音声聴覚情報処理
パターン認識
コンピュータグラフィックス基礎
インタラクティブ CG
ディジタル信号処理
情報セキュリティ
信号処理概論
ヒューマンインタフェース
人工生命概論

開発と金融
社会開発論
応用数学
情報科学II
C プログラミング
データ解析
水環境論
都市文化共生計画
住環境計画概論
宇宙開発

都市計画実習
都市経済学
都市計画原論
開発経済学
都市計画の思想史
都市計画の歴史
世界経済史
コンピュータネットワーク
知能情報メディア実験 A
知能情報メディア実験 B

Economic Development
Social Development
International Education
Outline of Japanese Education
Social Anthropology
International Financial Institutions and Economic Development in Emerging Economies in Southeast Asia
Health Economics

専門基礎科目（必修）

国際学 I
国際学 II
国際学 III
国際学 IV

専門基礎科目（選択）

国際関係論
比較政治学
国際関係史序説
国際法概論
初級ミクロ経済学

国際経済論
マクロ経済学概論
文化・開発論
数理科学I
数理科学II

情報科学I
情報メディア概論
法学概論
政治変動論
行動調査法

統計科学
Media Politics
English Discussion Seminar
English Debate

国際生による授業レビュー

中央アジアの国家と社会

この中央アジアという地域を、世界地図の中で認識したことのある日本人は、どれだけいるだろうか。「ロシアの下にある『スタン系』の危ない国々でしょ!」なんて声が聞こえてきそうだが、せいぜいその程度の認識でしかないだろう。そのため、この授業の初回は、先生が国の名前から丁寧に教えてくれる。そして徐々に専門的な議論に移ってゆき、最終的には日本と中央アジア諸国の国際関係についても理解できるように導いてくれる。海を経ても接していないこの地域と日本の間にも、外交的交流があるということに、私も含めて多くの学生が初めて知ったことであろう。しかし、授業を受けた後に、ロシアと中国の合間に生きるこの地域の地理的特徴を考えれば、国際関係論のエッセンスがこの地域にも累積しているのではないかと議論できるまでになれたのは、本当に良い思い出である。実は、筑波大学は他のどの有名大学にも負けないほど、中央アジアとのつながりが深い大学だ。交換留学提携校の数や、短期研修などのプログラムが極めて豊富であり、また、キャンパスを歩けば、中央アジア系の留学生は毎日見かける。無論、国際生にも少なからず、在学中に中央アジアを訪れる人がいる。今年は受講者の半数近くが、中央アジアに渡航したことのある学生だったらしい。筑波大学だからこそ扱うことのできるこの地域について、勉強しない理由はないと私は感じている。この授業を受けることで、これまで白地図でしかなかった中央アジアという地域に、国境線が引かれ、各国の特徴や国際関係という彩りが加えられた。世界地図を見たときに感じる情報量を、大幅に増加させてくれた授業であった。

都市計画の歴史

国際「総合」学類というだけあって、この学類では何でも勉強できてしまう。都市計画もその例外ではないが、工学系の科目を国際生にこなせるのかと疑問に思う人も多いだろう。しかし、文理融合というトレンドは、この都市計画という学問分野にも浸透してきている。なるほど、国際生の出る幕である。
例えば、ある町とある町を比較してみると、「何故だか道路の配置が似てるじゃないか」なんてことがよくある。その理由が、かつて城下町の名残であるといった具合に、歴史と都市の関係がこの授業を通じて理解できる。
日頃、私達が何気なく歩いていた街並みにも、実は深い意味があり、それは歴史的に説明されうるという発見が、この授業で最も感銘を受けたところだ。
事実、目の前の風景に特段何も関心を寄せることのなかった私であったが、今では、街を見る目線が変わった。目に入ってくる街並みや道路の曲がり具合に、ついつい歴史的な理由を求めるようになっている。歩きスマホをすることもあったかつての私と比べると、この授業のおかげで、今の私の心は、相当程度精神的な豊かさを得ることができた。

初級ミクロ経済学

1年生の春学期。この授業を取らない国際生は、ほとんどいないといっても過言ではない。教室に行くのが遅れると、空いている席を探すのにも苦労するこの授業は、大学という人口過多な空間をまさに象徴しており、自分の座る席が決まっていた高校生の時とは、全く異なる感覚をもたらした最初の授業であった。
授業名に「初級」とついているものの、時に、理解に苦しむ難解な概念が登場することもあり、皆と頭を抱えたこともあった。
しかし、グラフや数字を用いることによって、「世の中のお金の流れをかくも美しく説明することができるのか」と、感動を覚えることもあった。事実、この授業を受けて開発経済学を専門にしようと考える学生も少なくない。
「あまり深く考えず、適当に履修した授業が意外と面白かった」ということが起こるのが、大学の授業であるが、この科目こそまさにその典型であろう。
多くの1年生が、この授業で経済学というものに初めて遭遇し、その奥深さに心が胎動するのである。
経済学という世界に優しく道案内してくれたこの授業は、期待感に満ち溢れた大学1年生の時の初々しさを、呼び起こしてくれる記憶として、私の心の中に今も残っている。

朝、自然と目が覚める。授業が私を呼んでいる。そういう興奮をこの学類で感じている。

筑波大学 University of Tsukuba
総合学域群
https://scs.tsukuba.ac.jp/

総合選抜入試で筑波大学を受験し、2年次より国際総合学類に所属することによっても、これらの教育過程を経ることができます。
一緒に授業を受け、興奮を分かち合える日をお待ちしております。

最高の学問を。

政治

潘ゼミ（日本政治外交史）

人に言われずとも
自分で勉強できる。
そんな人たちがこのゼミに
集まってきてる。

村中信隆

——のぶりん（村中のあだ名）って、興味の範囲広すぎね？政治・歴史・経済全部好きやんな。どうやってゼミ選んだん？

村中　実際、どのゼミに入ろうか悩んだけど、結局、潘先生のところで勉強しようと思ったのは、戦前の政党政治に興味あったからかな。

——いや、それだけやったら分からん。詳しく。

村中　もともと、日本の近現代史に興味があった。んで、その中でも、なんで日本が太平洋戦争に突入してしまったんかってことが知りたかった。でも、そういう論考って結構あるやん。軍部が暴走したから云々なんて説明はよくあると思うけど、政党政治の観点からも理由づけできるかなって思ったんよな。

——いつから、そんなこと考えるようになったん？だって、世界史選択やったやろ。日本史いつの間に勉強したん？

村中　大学入学してからも、受験勉強のノリで日本史の勉強やってたから、普通に興味持った。

——入学してから独学したってこと？

村中　おん。あと、潘先生の授業受けてくる中で、これかなあって感じた。もちろん、ゼミ入った今も勉強してるよ。

——のぶりん、すんげえな。ゼミでは普段どんなことしてるんん？

村中　主に、輪読かな。こないだは、歴代駐米大使の系譜を追ってた。

——え、駐米大使？

村中　そう。普通は外務大臣・国務大臣とかに着目して外交政策とかの変遷を追いかけたりするけど、駐米大使にスポット当てるっていうのは新鮮やったな。扱う本が学術書とかになってくると、切り口が独特やから、読んで楽しいわ。自分が知ってるつもりやったことが、実はすごい浅はかで一面的な見方やったなあって思うことが増えてきた。

——確かに。でもさ、専門性が増しすぎて、理解が追いつかへんとかあるくない？

村中　理解が追いつかへんというよりかは、もっと勉強せやなあかんなって思った。輪読終わってから、先生から質問があって、「安倍政権の外交のどちらに似ていると思いますか？」って聞かれたんやけど、正直難しかったな。でも、答えのない問題に自分なりの解答を出していく作業ってのは、受験勉強とは違った感覚がして、楽しかったわ。

村中信隆（のぶりん）
三重県出身
三重県人会会長
情報の吸収力はスポンジ並み

最高の学問を。

文化

関根ゼミ（開発人類学）

今、浸透している理論を
打破していく必要がある。
トップダウンじゃなく、
ボトムアップな開発。

水野巴那

——巴那にとって、関根ゼミってどう？やっぱり学群長のゼミだから厳しかったりする？

水野　いや、オンとオフの差がかなり激しいっただけかな。

——え！意外！オフとかあるんや。じゃあ、まずはオンのほうから聞こっかな。ゼミでどんなことしてんの？

水野　うちのゼミは、文化人類学の観点から開発を議論してるから、経済学とは全然違うアプローチなんよね。

——詳しくお願い。

水野　途上国の開発っていうと、普通、経済水準をどうやって高めるかって議論を思い浮かべるでしょ。でも、それだけじゃ途上国の開発はうまくいかへんってうちらは考えてて。

——え、なんで？

水野　もし、経済発展だけを途上国支援の目的と据えるなら、途上国の人たちが置いてけぼりになってしまうことがあるんよね。例えばやけど、開発を名目に森を切り開いて、農地とか工場を作ったりするやん。でも、切り開いた森という場が、集落の人たちにとっては、宗教的・民族的に重要な場所であったりするなんてこともある。もし、経済的成長だけを追い求めた開発やったら、こんな問題が起こるくない？

——確かに。なんか、独善的な開発になってしまいそう。

水野　そうそう。開発する側が良かれと思ってしてたことが、裏目に出てしまうことも実はあるんよね。だから、開発する側と開発される側の双方向の関係がすごく重要。もっというと、開発される側の人たちが中心の開発が、本当は望ましいってこと。

——なるほどね。ところで、巴那自身は何に興味があるん？

水野　私は、日本の観光産業を開発人類学の観点から扱おうと思ってる。

——え？日本で開発人類学やるん？日本は途上国やないやん。

水野　でも、地方創生とかって、地方と中央の間に双方向的な関係が築けるように見えへんくない？「田舎は観光産業をやればいい」みたいな発想が中央には、どこかありそうで、一方的な関係な気がするんよね。今、それを独立論文のテーマにしてみようかと悩んでる。

——確かに！言われてみれば、そんな気もする。んじゃあ、次はオフの時の楽しげな話教えてよ！

水野　うーん。これは、ちょっと話が長くなりそうやから、実際に関根ゼミに入った人だけが知りうる秘密ってことで。（笑）

水野巴那
米国テキサス州出身
準硬式野球部マネージャー
優しさと強さを兼ね備える頑張り屋さん

底無しの学習意欲

環境

中野ゼミ（開発経済学）

普段の授業はもちろんだが、
自分で勉強することも大事。
自習室滞在時間じゃ
誰にも負けない。

小林洸太

——洸太さ、いつもサテ室（コンピュータ室）おるよな？何してるん？

小林　普通に勉強してるだけ。

——経済系の授業忙しそうに見えるけど、そんなに大変なん？

小林　いや、まあ大変なところもあるけど、俺が勝手に勉強進めてるだけってところもあるかな。だから、経済を専攻にしたら、なまら苦しいとかっていうわけではないよ。だけど、本気でやるなら、勉強しないといけないことは多いかも。

——例えば、何の勉強してるん？

小林　経済学で論文書くためには、数字と統計をちゃんと扱えるようにしとく必要があって、その勉強を最近はしてるかな。特に、計量経済学と統計ソフトの扱い方を中心にやってる。

——それを独学で進めてるんよな。やばいな、洸太。すげえわ。

小林　いや、俺がやりたいことと、ドンピシャだから、別に不本意でやってる訳ではないよ。（笑）しかも、授業で教わることもあるし。ただ、授業の延長を自分で勉強してるってだけ。

——とは言ってもやな、授業の延長を独習してるってのがすごいんやわ。ところで、中野ゼミでは何の勉強してるん？開発経済学だっけ？

小林　んだね。俺は、特にマイクロクレジットに興味があるかな。

——マイクロクレジット？

小林　簡単にいえば、途上国の低所得者層を対象としたソーシャルビジネスのこと。貧困脱却にも貢献するって、最近期待されてる。独立論文では、統計的にマイクロクレジットが、途上国の貧困層に与える影響なんかを分析して、因果関係を明らかにしようと思ってる。

——おーじゃあ、まさに独学してきた統計とか計量経済学の知識が、ここで活かされようとしてるってことね。

小林　そだねえ。（笑）

——中野ゼミの雰囲気はどんな感じなん？

小林　うーん。先生自身が明るい人だから、楽しいよ。それに、現場経験も豊富な先生だから、現地の話とかも聞けてめっちゃ刺激的。それでいて、ゼミ生も向上心高いし、自主性もあるから、みんなちゃんと勉強してるわ。別に俺に限って勉強してるって訳ではないべ。

——あー。中野ゼミみんなが勉強してるんや。いい雰囲気やな。

小林　んだね。これからは、独立論文も本格的に書かなきゃいけないしさ、もっと頑張らないといけんべな。

小林洸太
北海道出身
FORESTS所属・国際36期の新歓委員長
誰もが認める努力家

最高の学問を。

白川ゼミ（河川・水環境）

自転車でよく旅するんだけど、
ルートの中に
必ず川が入ってる。
それぐらい川が好き。

松永知也

——まつとも（松永のあだ名）、お前いつの間に川とかに興味持ったんや？国際関係分野の授業を地図帳開いて、最前列で受けてた人間が、ゼミでは環境分野を選んだってのが信じられへんのやが。

松永　いや、俺もとから川が好きだったんだよ。別に関心が変わったという訳でもないよ。国際関係論も好きだけど、ゼミは環境分野を選んだってだけ。

——川が好きってどういう意味や？川は川だろ。どこに好きになる要素があるんか意味分からへんねんけど。

松永　うーん。それを説明するのは難しいけど、川を研究するって面白いだよ。川と人間って、切っても切れない関係じゃんか。例えば、昔は治水工事も十分じゃなかったから、川が氾濫すると、人間の生活環境も尽く破壊されるなんてこともあった。でも、その一方で、川は生活用水や移動手段として不可欠な存在でさ。現代でこそ、堤防やダムのおかげで、川をコントロールできるようになったけれども、人類史全体でみたら、川と人間が今みたいな平穏な関係になるまでには、結構な時間がかかってたと思うんだよ。

——今まで、そんなふうに考えたことなかったわ！川と人類の関係、深いな。

松永　そうなんさ。でも、最近悲しいことに、川と人間の距離が離れてきてるような気がしてる。

——ほう。というと？

松永　防災とか治水とかに目を向けられてしまうあまり、人間の居住エリアと川の距離が離れすぎて分断されてしまったんだよ。生活用水も蛇口をひねるだけで手に入るようになってしまったから、川を意識せずとも生活できるようになってしまった。

でも、今、国交省が推進してるプロジェクトがあって、それが川と街をつなげることを目的にしてるやつだから、かなり期待してる。独立論文で何をするかは、まだ確定しきれてないけど、そういうのやりたいかな。

——いや、普通におもろそうやな。独立論文出来上がったら読ませて。ところで、ゼミってどんなん？

松永　白川ゼミって、工学システム学類生と一緒にやってるから文理融合なんだよ。だから、まちづくり・河川環境・水防災・経済まで、なんでもできてしまう。院生も一緒にいるから、かなりハイレベルな議論も聞けるし、洪水のシミュレーションをしてる人までいて、川に関することだったら、もう何でもありみたい。

——それめっちゃいい環境やな。そういえば、まつとも自身も理系で国際入ってきたから、相性がいいんかもな。

松永　それはあるかも。大学入って、理系のことに興味を持ったなら、このゼミに入ってしまうのも選択肢かも。あと、白川先生の授業って普通に楽しいからさ、それでこのゼミを志す人も多いと思う。

——そういえば、まつともSNSって、なんか川の写真多くない？旅行行くたびに、川の写真撮ってるん？

松永　あー。あんまり意識してなかったけど、実際、行程に川沿いが多いのは事実かも。自転車で一人旅によく行くんだけど、川沿いって気持ち良いんだよ。あと、ダムとか渓流とかもよく行くかな。台風で被災した地域にも、自転車を走らせて行ったこともある。旅行好きが高じて、ゼミを決めてしまったところはあるかもね。（笑）

松永知也（まつとも）
静岡県出身
元馬術部員
自転車だけで日本中を旅する強者

04 教員紹介

国際政治・国際法分野
International Politics and International Laws

政治系と国際法学系の科目を中心に、社会学類開設の憲法や行政学等を共通科目とすることで履修科目の充実を図り、国際社会の多様化、高度化、グローバル化に対応して、幅広い分野における調査、分析、政策立案などの高度な実戦能力を有し、日本国内だけでなく国際社会においても指導的役割を果たすことのできる人材養成を目的としています。

＜教員紹介の歩き方＞
分野は大きく分けて４つある。興味のあるところから読んでみよう。
①では各教員の研究分野を簡単に説明して頂いた。それぞれの研究愛が感じられる…！
②は高校生に向けたメッセージである。これは貴重すぎるのでは！？

潘 亮 Liang Pan

①日本外交史。一枚一枚の資料を通して遠い過去と遠い将来の間に位置する現在の国際社会の諸問題とその意義をじっくりと観察・思索しながら、時代の躍動感を「静かに」満喫する機会に恵まれる分野です。
②大学を単なる問題解決の方法を習得するための場所としてではなく、問題を発見する方法、そして問題に立ち向かう姿勢を学ぶ場所として活用していただきたいと思います。

レスリータック川﨑 Leslie Tkach-Kawasaki

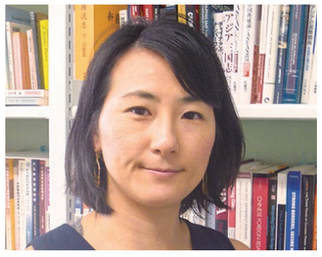
① Political Communication, New Media and Politics, Website Analysis, E-science, Research Methods in Internet Studies. My research area combines a traditional academic discipline-political science- with Internet studies and e-science (or "e-social science"). This combination of studies is always changing and is very fascinating.
② I hope that our students will be encouraged through their coursework and research projects to view the world from different perspectives. Developing expertise in assessing, comparing, and communicating different viewpoints is a necessary skill in today's world. Please join us!!

赤根谷 達雄 Tatsuo Akaneya

①国際関係論（国際政治学）。国際関係論という研究分野の特徴は「多様性」にあります。国際的出来事の中身は多種多様です。そのため、他分野から得られる知見を総合的に活用して、様々な問題や課題に取り組み、新しい知見を切り開いていくという面白さがあります。学問上の特性からして、最新の科学技術から古今東西の文化に至るまで多様な題材を取り扱うこととなり、研究しながら人生を楽しむことができます。
②人工知能（AI）やビッグデータの進歩発展による世界の質的変化には目まぐるしいものがあります。そのような社会進化の速度は加速しており、今日の花形の専門職が近未来もそうである保証はありません。チャンスとリスクは併存しています。大学では時代の変化に柔軟に適応していける知恵と技能を身に付けてください。

東野 篤子 Atsuko Higashino

①現代ヨーロッパの国際関係。欧州連合（EU）を中心としたヨーロッパの国際関係を学んでいます。ユーロ危機、ノーベル平和賞、トルコの加盟交渉の行方、ウクライナなどの周辺諸国の危機など、悲観的要素と楽観的要素が常に交錯する EU から、片時も目が離せません。
②たくさんの本を読み、貪欲に学んでください。



毛利 亜樹 Aki Mori

①現代中国研究、アジア太平洋の国際関係。対外行動と国内政治がどう連動しているのかを解き明かすこと。
②歴史と古典を学び、生涯の道しるべにしてください。

Timur DADABAEV

①国際関係・政治
②大学での４年間を最大に活かすために目標と計画性を持ってください。

大友 貴史 Takafumi Ohtomo

①国際政治理論、国際安全保障、同盟。
② Critical thinking を大切に。

大倉 沙江 Sae Okura

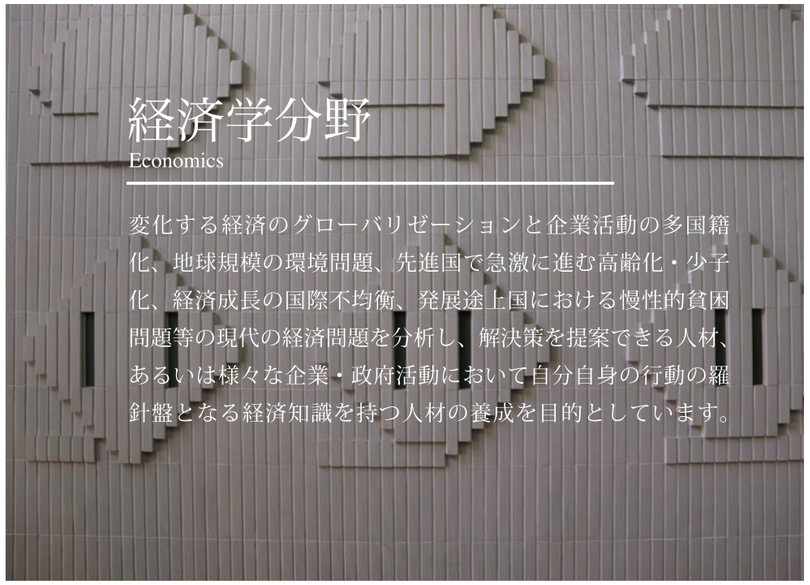
①政治学、市民社会論、利益集団論、ジェンダー論。日本の福祉政策・女性政策はどのように変化しつつあるのか、またそれに圧力団体（女性団体や障害者団体と呼ばれる団体）がどのような影響を与えているのかを分析し、より社会的にぜい弱な立場にある人々の意見が政策に反映される条件について考えています。
②本を読み、自分でデータを集め、分析するという訓練を通して、多様な価値観がある社会の中でも自分の人生の基盤となる考え方や価値観を一緒に身に付けましょう。

外山 文子 Ayako Toyama

①タイ政治、比較政治学。タイでは過去 19 回も軍事クーデタが起きています。経済は順調に成長したものの、政治はなかなか民主化しないタイ政治は、奥深くて興味が尽きません。
②好奇心を持って、楽しみながら勉強できるといいですね。

茅根 由佳 Yuka Kayane

①東南アジア政治 。とくにインドネシア政治を中心に研究しています。体制変動や民主化に伴う地域独自のダイナミズムの究明に研究の面白さがあります。
②積極的に海外に出て多様な価値観を学んでください。



経済学分野
Economics

変化する経済のグローバリゼーションと企業活動の多国籍化、地球規模の環境問題、先進国で急激に進む高齢化・少子化、経済成長の国際不均衡、発展途上国における慢性的貧困問題等の現代の経済問題を分析し、解決策を提案できる人材、あるいは様々な企業・政府活動において自分自身の行動の羅針盤となる経済知識を持つ人材の養成を目的としています。

柏木 健一 Kenichi Kashiwagi

①開発経済学。中東北アフリカ地域。現代中東北アフリカ経済における制度やシステムを歴史的背景と地政学的特性を踏まえて分析し、産業発展や雇用創出に生かそうと考えています。
②幅の広い視野を持ち、知的好奇心を常に磨きましょう。

36 期の所属ゼミ

松島ゼミ（10 人）毛利ゼミ（10 人）吉田ゼミ（7 人）関根ゼミ（7 人）前川ゼミ（5 人）井出ゼミ（5 人）東野ゼミ（4 人）柴田ゼミ（4 人）田中ゼミ（4 人）松原ゼミ（3 人）タック川﨑ゼミ（3 人）潘ゼミ（2 人）柏木ゼミ（2 人）ダダバエフゼミ（2 人）大友ゼミ（2 人）茅根ゼミ（1 人）中野ゼミ（1 人）大倉ゼミ（1 人）奥島ゼミ（1 人）赤根谷ゼミ（1 人）白川ゼミ（1 人）

国際を選んだ理由

国際的・学際的な学びを得たかったから / 高校生の時は何をやりたいのか分からなかったのでなんでも学べそうな国際にした / 国際政治に興味があったから / 国際開発を勉強できるから / アフリカの国際関係について深く勉強できそうな国立だった / キラキラ国際だから / 様々な経験をしてきた仲間と切磋琢磨できると思ったから / 田舎で国際関係を学べるという環境 / 横断的な学びができるから / 多くの分野を学んでから専攻を決められるから / オープンキャンパスの雰囲気 / 国際系の学部が流行っていたから / グローバルな人材に憧れたから / 受験科目が２科目だけだから / 楽しそうだから

04 教員紹介

内藤 久裕 Hisahiro Naito

①公共経済学、実証経済学。第一に、社会の様々な事の原因には経済的背景があることだと思います。第二に、常識的にはそのようなことがありえないのではないかという事柄に関して、論理的に切り込んでいってその常識に挑戦する仮説を立て、データでそれを証明して、これまでの常識を覆すことができる点だと思います。
②よく学んで、いろいろな話をして、いろいろな本を読んで、旅をしてください。それが、君たちの肥やしになると思います。

Zhengfei YU

① My research field is Econometrics. It focuses on the methodology of recognizing spurious relationships and uncovering true causality from data. For example, in data we observe that college graduates usually earn more than high school graduates. Is it because education enhances labor productivity? Or is it simply because smarter people are more likely to go to college? Econometrics provides methods to answer such questions.
② Good luck in discovering and following your passion.

中野 優子 Yuko Nakano

①開発経済学。発展途上国の人々がどのように貧困から抜け出せるかを研究しています。アフリカ農家に話を聞いて得たデータを分析し、所得向上のための方策を途上国政府、援助関係者や農家の方々と共有できることがやりがいです。
②大学では論理的な思考能力と、自らが生きる社会を相対視する力を養ってもらいたいと思っています。大学の勉強は「知的などきどき」に満ち溢れています。たくさん勉強して、色々な経験をして、悩んで、何か一つ、「これだ！」と思えるものを見つけてください。

黒川 義教 Yoshinori Kurokawa

①国際貿易論、産業組織論、マクロ経済学、日本経済論。普段当たり前のように耳にしている議論が、実は、単純な経済学を使ってみると、根拠のない議論であったと分かる時があります。それは経済学を学ぶことで味わえる面白さの一つではないでしょうか。
②常にいま何がプライオリティなのかを見失わないように気をつけて欲しいと思います。また、短期でも海外留学することを勧めています。「日本 (出身国) から来た誰々さん」というだけの裸の自分になれて楽になれます。

Mohammad Abdul Malek

① Over the years while working with the Universities/think tanks, INGO (BRAC) and Government, I have gained a diverse perspective on international development and dedicated myself to test acceptability and adoptability of different technological and institutional innovations of the contemporary needs.
② To me, smart high school students who are motivated to contribute to the future policy reforms in his/her country, region and international level, I recommend them to study economics/international development at University of Tsukuba. I enjoy teaching and supervising students on Development Economics, debate on global issues, and South/Southeast Asian Economics.

田中 洋子 Yoko Tanaka

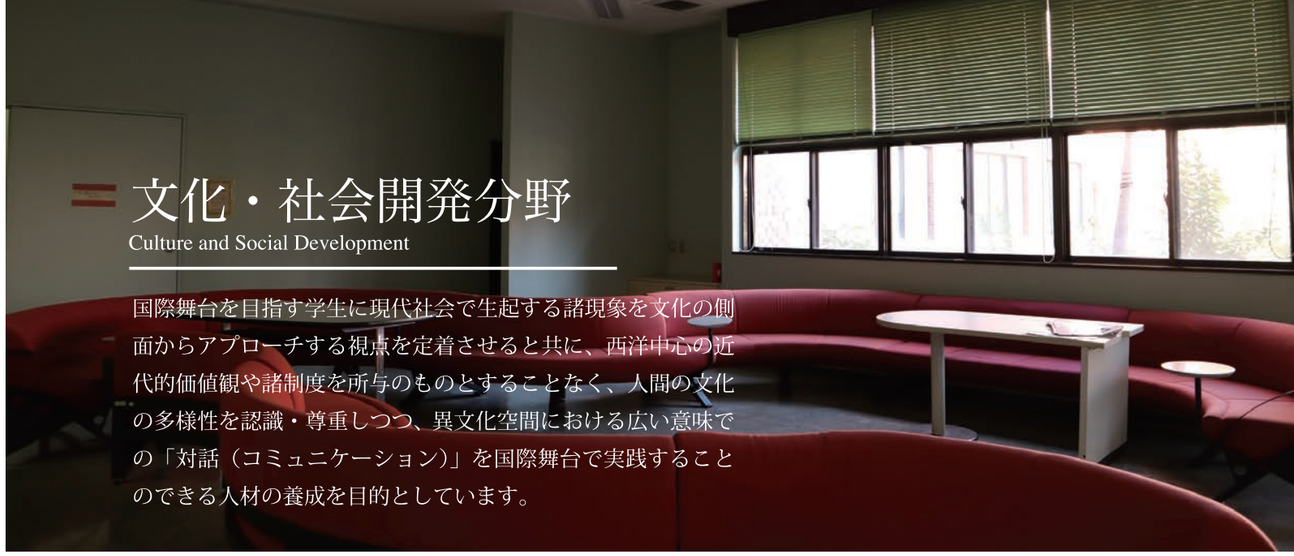
①企業・労働史、グローバル経済史、比較労働政策。研究対象：日本、世界、ドイツ。消費者として店で買い物をしたり、アルバイトとして働いたり、スマホで情報を得たり、こうした日々の生活はすべて、グローバルな経済や企業の活動から大きな影響を受けています。 どんな仕組みで経済が動いているのか、その中で私たちの生活はどう変わりつつあるのかを考えています。
②大学生のうちに、自分の足で、五感で、世界を見て、グローバル化の現実を肌で感じてきてください。その経験は間違いなく、世界の人々への理解を深め、世界を見る眼を研ぎ澄まし、人生にとって貴重な財産となるでしょう。

Abu Girma MOGES

① Economic Policy and Poverty. Economic policy study explores the interaction between theory and applications in the real world context and research on the political economy of poverty reduction issues is an exciting and challenging area of economic research. That is its appeal for me.
② We live in a challenging and brave world. Intellectual effort to deal with new challenges and to explore new solutions is an important path for a better world. As future leaders in your respective areas of responsibilities, education will be your best capability to impact your society. Learn how to enjoy learning in the process.

筑波大学のイメージや特徴

自然あふれたキャンパス / いろいろな学類の授業が受けられる / 陸の孤島 / 大学の周りに住んでいる人が多いからアットホーム / とにかく広い！ / 多様な学類が集まっていて個性的な人が多い / 真面目に不真面目に / 開かれた大学 / 森 / 筑波時間 / 落合陽一 / ダイバーシティ / 独自色が強い / 芋 / 図書館などの設備が充実している / 比叡山延暦寺 / 勉強するには最高 / 隣の人はすごい人 / 自転車が足



文化・社会開発分野
Culture and Social Development

国際舞台を目指す学生に現代社会で生起する諸現象を文化の側面からアプローチする視点を定着させると共に、西洋中心の近代的価値観や諸制度を所与のものとすることなく、人間の文化の多様性を認識・尊重しつつ、異文化空間における広い意味での「対話（コミュニケーション）」を国際舞台で実践することのできる人材の養成を目的としています。

井出 里咲子 Risako Ide

①言語人類学、語用論、社会言語学、ことばと文化からひもとく人間社会の理解。地域：アメリカと日本、過去には韓国も。
②勇気と好奇心を胸に、色々な人と出会い、様々な景色を見て、複眼思考を身に付けてください。

関根 久雄 Hisao Sekine

①文化人類学地域開発論、オセアニア島興研究。当たり前を疑い、現象の内側に隠れている意味を明らかにすること。
②大学受験や将来の進路など、悩ましいことばかりの日々かもしれません。多少遠回りになっても、自分にはハードルが高いと思ってしまうようなことであっても、後悔しない挑戦をしてください。それはきっと、あとになって何ものにも代え難い財産となって返ってくるはずです。

前川 啓治 Keiji Maegawa

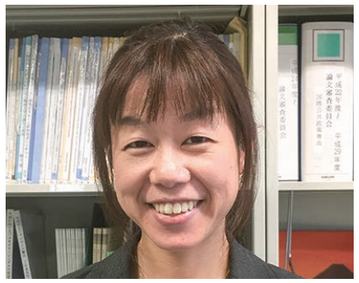
①文化人類学、開発の人類学、観光による地域づくり。
②「はじめに言葉ありき」一情熱を抱くものや対象があり、それを手に入れたければ、まず気持ちを込めて言葉にしてみよう。「～したい。」ではなく、「～しました。」と過去形で、話そう。現実とは、言葉の後に表出してくるものなのです。

柴田 政子 Masako Shibata

①教育社会史、歴史教育、比較教育。比較教育学：国際的な視点で、社会が変化する過程で教育が果たす役割を考えること。
②夢を追ってください。多様な生き方が受け入れられるようになった社会で、自分の感性を磨き信じて人生を歩み進んでください。

松島 みどり Midori Matsushima

①公共政策・国際保健医療・インパクト評価。特に、政策のデザインや実施方法に人がどのように反応するか、そしてどうすれば、より効果的な政策が実施できるのかを定量的に研究しています。現実社会に直結した問題を研究できるといった点が気に入っています。また、人々の行動について研究をしていると、自分がいかに人間の行動に無知であるかが分かり面白いです。
②心から楽しいと思える人生を、自分のために、自分の幸せに責任をもって歩んでください。



国際ならではの特徴

縦も横も仲がいい / 個性が強い / 才能豊か / 帰国子女や留学生が多い / すぐ海外、すぐ旅行、すぐヒッチハイク / モチベーション高い人の集い / 英語を使った授業が多い / 何をやっても分野外にならない / 美男美女が多い気がする / いろいろな背景を持つ人に出会える / 学生がいろんなベクトルで頑張っている / 学び方次第でジェネラリストにもスペシャリストにもなれる / 同期全員が互いに名前と顔を把握しているのはこの学類以外ありえない

04 教員紹介

情報・環境分野
Information and Environment

ITの発展ほど目覚ましく、国際舞台での活躍を目指す学生にとって必須になるものであり、また環境・資源問題が深刻さを増し、地球規模での取り組みが必要になっています。基礎的素養として情報リテラシー、深い洞察力・分析能力を身につけさせ、さらに情報・環境分野での専門性を深め、国際舞台で活躍できる文工融合型技術者の養成を目的としています。

高橋 伸 Shin Takahashi

①ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）。コンピュータと人との関わり合いという面から、より良いコンピュータシステムを探っています。情報科学、数学、社会学、心理学、人類学、哲学など理系文系にわたって多くの分野に関わる学際的な研究分野です。
②国際総合学類はいろいろな分野の教員がいて、幅広いものの見方を学べる学類です。情報科学やHCIも少しかじっておくと将来何かの役に立つかもしれません。

Simona VASILACHE

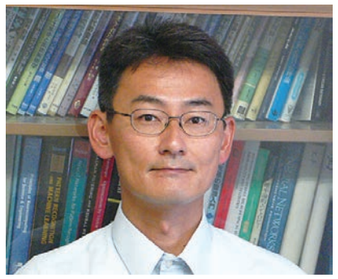
① Computer science / Software engineering. Computers represent this wonderful world that we so often depend on. However, they are very obedient, they do what we tell them to do. Learning how to make computers listen to us and work for us is interesting and cool!
② Do not be afraid to follow your dreams, to try new things. This is the time to find out what you love and pursue your passion, no matter what! Study hard, learn about the world around you, travel, read many books and make many friends!

松原 康介 Kosuke Matsubara

①多文化共生の都市計画。中東・北アフリカ地域の都市計画。
②留学を通じて心身ともに鍛えましょう！

奥島 真一郎 Shinichiro Okushima

①環境経済学、エネルギー経済学、政策分析。環境やエネルギーに関わる問題について、主に経済学的な観点から分析しています。「市場」や「マネー」という手段を「人間」や「環境」という目的(善)にどのように結びつけていけばよいのか、日々考えています。
②大学生になったら、専門的知識だけでなく教養を、また「自ら学ぶ習慣」、「自ら考える習慣」を是非身につけてください。



亀山 啓輔 Keisuke Kameyama

①情報工学、特にパターン認識とメディア処理
五感から入ってくる刺激を学習に基づきカテゴリ分けし、更なる状況判断に活用する、人間がもつ知的能力をコンピュータで実現することをめざす研究分野です。昨今、いくつかの応用に対してはコンピュータが人間を越えたとも言われますが、まだまだ人間をはじめとする生物、自然に学ぶことは少なくありません。
②自分が思い描いているゴールを実現するためには、自分にどのような能力が必要なのかを真剣に考え、時間を無駄にせず着実に前進してください。

蔡 東生 Dong-Sheng Cai

①私が行っている研究は、宇宙気象とか、水星探査と関連しています。太陽系で、磁気をもっているのは、太陽、水星、地球だけで、水星は地球より太陽に近い軌道を回っており、到達困難な惑星です。地球の磁気は、宇宙から来る放射線から人間を守っていますが、この磁気は決して未来もあるわけではありません。そこで太陽、地球の磁気観測をやっています。宇宙開発プロジェクトに参加してみたい人は、是非連絡してみてください。ロケットの打ち上げや、打ち上げ場は見てみる価値があります。
② 18-20代の後半は生涯で一番成長の著しい期間です。この期間に、留学したり、経験を積むことは大事です。いろいろな経験を積む中で、自分の本当にやりたいことを探してください。自分の内なる声、「リトル自分(サッカーの本田選手は“リトルホンダ”といっていました)」に自分の本当にやりたいことを問い続けてください。

白川 直樹 Naoki Shirakawa

①河川工学。ひとつひとつの川に個性があり、歴史があり、人と関わっているところ。
②日本のような変動や攪乱の多い川には，それに応じた生態系が成り立ちます。変動や攪乱があるからこそ育まれる個性もあります。非効率に見える冗長性は変動を乗り切るのに役立ちます。皆さんも，安定を求める人，変動を求める人，それぞれを尊重して許し合える社会を作っていってほしいと思います。

岡 瑞起 Mizuki Oka

①研究分野の名称：ウェブサイエンス・人工生命。SNSなどのインターネットサービスを生命のように捉え、その生態系や進化メカニズムを理解する研究分野です。
②これからの学問には、文系・理系問わず文理融合の学問的な素養が必要になってきます。文系・理系両方の科目を学べる筑波大学・国際総合学類で一緒に学びませんか。

鈴木 大三 Taizo Suzuki

①多知覚メディア処理。多くの情報メディア技術を支える「信号処理」や「画像・映像処理」を基盤とした研究を行っています。たとえば携帯電話や地デジTV放送にも、そのノウハウがギッシリ詰まっています。
②世界の変化と共に、様々な情報メディア技術も日々進化を続けています。単に国際関係の知識を有するだけでなく、情報メディア技術の知識やそれを扱う方法を身に付ければ、世界における活躍の場が更に拓けます。

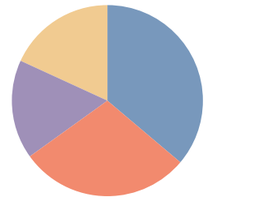
コラム１　データでみる36期

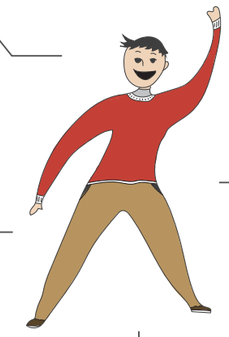
出身地

筑波大学国際総合学類の選ばれし36期は30の都道府県から集まっており、もっとも多いのは茨城県出身（11人）であった。ここには示せていないが、アメリカ出身とマレーシア出身が１名ずついるのも国際として主張させていただく。

サークル

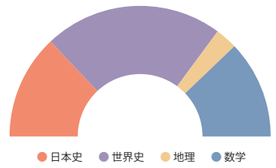
あまり偏ることなく様々なサークルに所属しているようだ。ここには無所属のデータを入れていないが、もちろんサークルに所属せず独自の活動に情熱を燃やしている学生もいる。つまりは自分の思い描く学生生活を満喫した者勝ちである。

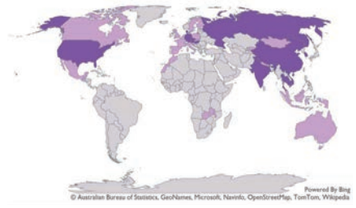




二次試験科目

文理融合といえど、全体的には文系が多い印象である。国際でも日本史を選択している学生は意外と多いので、選択科目は得意なもので勝負しよう。





アルバイト

アルバイトの中でも特に多いのは飲食である。しかし一言で飲食といってもその種類は様々なので、家からの距離や賄いの有無、福利厚生などの様々な観点から選ぼう。アルバイトでの経験はかなり身になる。

入学後の渡航国

コロナで海外渡航が制限されても、入学後の約２年間でこれだけの国に渡航してきた36期。旅行や留学、さらにはサークル活動の一環として海外に渡航しまくる国際のアクティブ具合はこのデータからも伝わるだろう。（薄紫は５人以下、濃い紫は５人以上の人が渡航した国）

05 留学体験記

古田のどか
留学した国：スペイン

海外での学び

渡邊智也
留学した国：ドイツ

私は昨年（2019年）の8月、ドイツ東部にあるバイロイト大学で約1か月間の語学研修に参加しました。

まず授業に関してですが、この語学研修は文法がメインの午前授業と会話がメインの午後授業という2部構成となっていました。そのクラスのレベルについては事前に日本で受けたプレテストの結果に基づいて決められたのですが、私は当時まだ文法を一通り終えた程度のレベルであったため比較的下のクラスで授業を受けました。午前中の文法の授業は過去の表現、序数、時刻などとこれまでに一度は習っていたような一般的な内容でした。しかしこれまでの日本でのドイツ語の講義と大きく異なっていたことは、プリントやテキストで文法事項を一通り学んだあとは音読やペアワークを繰り返し行うなど、「声に出して体に染み込ませる」ということに比重が置かれていたことでした。また、午後のスピーキング授業では主に、紛らわしい発音の練習やペアワークで日常会話、簡単なドイツ語のプレゼンなど実践的な内容を学びました。ここでも実際に声を出すことが強く求められました。私はこれまでドイツ語での会話や発表などはほとんどしたことがなかったため最初はとても難しく苦労しましたが、授業を重ねるにつれて段々と学んだ単語や表現を使って自分の言いたいことを言えるようになっていったことを実感しました。私はこれらの二つの授業を通して、外国語能力を最も確実かつ効率的に向上させる鍵は自ら積極的に話し、間違え、そして修正していくという行為にこそあるということを改めて学びました。加えて、授業中は基本的に私を含めた日本人の学生は指名されない限りほとんど自ら発言することはありませんでしたが、外国人の学生（主にヨーロッパ）は少しでも分からない事項があると理解するまで積極的に先生と議論を交わす場面が多く、日本と海外の学習環境・態度の違いも身に染みて感じました。

続いて研修中の生活面についてですが、私は大学近くの家族宅で、同じプログラムに参加するヨーロッパの男子学生2人と共にホームステイをしました。私はホームステイをすることは初めての経験だったので今回の研修の大きな楽しみの一つでしたが、ホストファミリーのご家族は基礎的な英語しか通じず、一方で他の2人の学生はドイツ語がおぼつかない方は自分だけホストファミリーと思うようにコミュニケーションが取れず苦しい思いをしました。しかしながら、大学での授業を受けるにつれて段々とドイツ語を話すということへの抵抗がなくなっていくと、段々と自分からホストファミリーにその日の出来事や質問など簡単なドイツ語ですが積極的に話しかけられるようになり、終わりごろには研修のことやドイツの文化、社会のことなど様々な話をできるまでになりとても嬉しかったです。これは研修に限った話ではありませんが、やはり受け身になるのではなく貪欲に動いてみることが成長につながるのだと思います。また日々の生活では、食事を基本的に自分で調達する必要があったためお昼は学食で食べ、朝と夜は近くのスーパーで購入しました。スーパーは日本よりも安い価格でパンや飲み物が買えたので非常に便利でしたが、日曜日にほとんどお店が閉まることや店員の接客態度が日本と大きく異なることなど、様々な文化の違いを目にしました。他にも私は授業のない時間帯はできるだけ街中に繰り出し、日常生活や街の構造などで日本とは異なる点を見つけ、なぜそれが違うのかを常に考えることを心掛けたので、自然と日本を客観的に見る癖がつきました。

以上が私の研修の体験談になりますが、私はこの研修でドイツ語の能力に加えて、旅行では感じられないありのままのドイツを体感することができました。そして、海外においては日本以上に貪欲に学ぶ姿勢が重要であり、そうすることでこれまでになかった数多くの知識や経験を得られることが出来ると改めて実感しました。

筑波大学では、世界中の様々な国や地域で行われる研修が用意されており、また奨学金制度なども非常に充実しているので、長期休暇を有効に使いたい人や短期間で語学力を鍛えたい人、のちの長期留学に向けて海外での経験を積んでおきたい人などは、短期研修にぜひ積極的に応募してみてください。

留学に正解なんてない

古田のどか
留学した国：スペイン

国際総合学類には留学をする学生が多いです。これを読んでいる人の中にも、なんとなく留学したいなぁなんて思っている人もいるのではないでしょうか。

私も皆さんと同じような気持ちで入学して、2年生の夏から半年間、スペインのサラマンカ大学に交換留学をしました。1年時の秋にスペイン語へ興味がわいてから少しずつ留学プランを考え、最終的に交換留学制度を使って、新しい分野を第二外国語で学習したいと思うようになりました。選考の末、承認をいただいてからは、怒涛の毎日。語学の勉強、そして事前準備や履修登録に明け暮れました。中でも日西の2か所で申請する留学ビザは、情報収集から申請まですべて自分で行うため大変でした。

第二外国語の授業に毛の生えた程度の語学力しかないまま、不安いっぱいでサラマンカに降り立った日のことは今でも鮮明に覚えています。焼けるような陽ざしとカラカラに乾燥した空気の中、何か食べようと思い立って小一時間。コンビニもなく、店という店が閉まっていて、半泣きになりながらサラマンカの見惚れるほど美しい街のど真ん中で途方に暮れました。当時の私はスペインのシエスタ（お昼寝）の文化を知らなかったのです。言語から生活習慣までなにもかもが異なる、そんな新しい世界に足を踏み入れた瞬間でした。

はじめの1か月は体と頭を慣らすために語学学校に通いました。午前中に授業を受け、放課後は勉強、探索、家探し。9月からの本格的な大学の授業は、せっかくなら自分の好きな科目を勉強しよう、と歴史地理学部で受けました。結論から言うと、もうびっくりするくらい難しかったです。最初はほとんど聞き取れないまま混乱状態で出席。同じ授業を取ってる留学生仲間を見つけ、放課後はカフェや図書館で一緒に勉強しました。留学後半になってくると歴史用語や固有名詞も聞き取れるようになり、「あー、今百年戦争の話してる」なんて分かるようになった日には小さくガッツポーズをしたものです。学期末には課題やテストに追われながら、あわただしく私の留学生活は幕を閉じました。つい先日、留学先で取得できた単位を筑波大学の単位に交換してもらい、やっと一息ついたところです。

スペインでの半年間はとにかく濃厚で刺激的でした。スペイン語を習得したいと思い立って飛行機に乗り、両手いっぱいに、はちきれそうなくらいの学びと気づきを持って成田に帰ってきました。ここで一つだけみなさんに伝えるなら、留学に正解なんてないということ。楽しまなきゃ、仲良くしなきゃ、と必死になってしまいがちですが、何か一つでも学んで帰ってこれたらそれでいいと思います。辛いことや挫けそうになることなんて日常茶飯事で、新しい刺激や衝撃的なことの連続が留学です。そんな目まぐるしい時間の中で、驚きや発見、学びや気づきを得ることこそが留学の醍醐味で、自分の成長を垣間見ることができる瞬間だと思います。

自分と違う「当たり前」との出会い

薄井多空見
留学した国：フィリピン

私は、2年次の7月から12月までの約半年間、AIMSという東南アジア諸国への交換留学プログラムを利用して、フィリピン大学に留学していました。本学には欧米への留学プログラムも多数あるなかで、私がフィリピンへの留学を選んだ理由は主に二つあります。

一つ目に、より現地に密着した形で開発について勉強したかったからです。私は、大学で国際開発学を専攻しており、将来は開発学の分野で最も先進的とされるイギリスの大学院へ進学したいと思っています。そのため、学部生のうちは、日本やイギリスとは違う現地の視点から開発を勉強したいと考えていました。フィリピン大学には、地域開発についてフィールドワークをしながら学べる授業があり、とても魅力的に感じました。

二つ目には、英語のコミュニケーション能力を向上させたかったからです。フィリピンでは英語は公用語の一つで、小学校から一部科目の授業が英語で行われていることもあり、ほとんどの人が英語を使うことができます。私は英語に対して強烈な苦手意識を持っていたので、長期留学で英語に囲まれて暮らすなかで、その苦手意識を克服したいと思っていました。

ここで結果を記すと、地域開発の学習と語学力の向上という二つの目的は、留学でどちらも達成することができました。しかし、留学の成果としてはそれ以上に、日常生活の中で様々な気づきや学びを得たことのほうが大きかったように思えます。

例えば、ある授業では、男性の先生が毎回3歳くらいの子どもを授業に連れてきました。日本だったら、子どもを保育園や知人などに預けるので授業に連れてくることはまずないでしょう。しかしそれを伝えると、先生は「社会が行うべきは、子どもを預ける場所をつくるか、すべての場所をchild-friendlyにするかのどちらかだ」と言いました。私にとって後者の考えは目から鱗で、自分にとっての「当たり前」が、いかに周囲の社会環境によって形作られたものであるか気づかされました。

また、授業に関しては、日本と比べて天候を理由に学校が簡単に休校になることにも文化の違いを感じました。もちろん、フィリピンでは雨季（5～11月頃）の天候が極めて不安定なことも関係していると思いますが、たとえ晴れていても台風が近づいていたりすると休校になります。はじめの1週間で3日も学校が休校になり、雨季とほぼ重なる留学期間中に満足に授業を受けられるのか心配になって、私は現地の友達に相談したくらいです。

このように、留学中は日常の些細な出来事からも新たな発見がたくさんあり、日本とは違う価値観や文化に触れたことで、視野が大きく広がったと感じています。また同時に、外の視点から日本の現状を見ることができるようになり、日本の良さや課題について再認識することもできました。フィリピンで過ごした時間は本当にかけがえのないもので、この経験は間違いなく大きな財産として、将来にも役立つと思います。この学びを忘れずに、今後も自分のキャリアに向かって邁進していきます！

西森麻衣
留学した国：メキシコ

たった2週間、されど2週間

2年次の夏、本学の「持続的な社会の安全・安心に貢献するトランスパシフィック協働人材育成プログラム」の短期研修に参加し、17日間メキシコに滞在しました。私はそれまで、中南米への渡航経験もなく、メキシコのことはニュースで見聞きする程度で、「海の向こう」の遠い国だという印象でした。しかし、実際に研修を通して見えてきたことは、実はメキシコと日本は友好関係が深く、心の距離はとても近いということでした。たった2週間の研修でしたが、日本とメキシコの友好関係をはじめ、メキシコの歴史、文化や習慣を肌で感じることができたと共に、大学での講義、日系企業への訪問や現地に住む日本人との会話を通してメキシコの「今」を知り、ラテンアメリカに興味を持つきっかけとなりました。

メキシコと日本を比較すると、おそらく貧困問題や治安・衛生について日本のほうが発展しているとみてしまうことがあると思います。しかし、研修先の一つとして訪問した特別支援教育施設では、その設備や教育の質、運営を支援する企業数など大変充実しており、中南米の国々を日本よりも貧しいなどと一概に捉えるべきではないと思いました。たしかに、メキシコは貧富の格差が大きく、特に首都であるメキシコシティでは水不足や高齢化など問題が山積しています。しかし、そのように複雑な社会の中でもそれぞれができる範囲で社会に貢献しており、このような姿勢は私自身も身につける必要があると感じました。

また研修を通してメキシコを含む中南米と日本の関係にも興味を持ちました。日墨の友好関係は江戸時代から長く続いており、中南米には多くの企業が日本から進出しています。しかし、近年は進出先が中南米から他地域へと変更されつつあり、中南米への関心が低下しているという現状も学びました。一方で現地の人々の日本への関心は高く、日本の食文化やアニメなどは特に人気があり、私は日本とメキシコの関係を維持していくためには、日墨の交流をさらに活性化させ、また日本のメキシコへの関心を高めることが必要だと感じました。

私は入学当初は長期留学を考えていましたが、1年次の英語研修（英国）と今回のメキシコでの研修に参加し、短期間の研修に複数回挑戦することにしました。どちらも1か月弱の研修で、気づいたら帰国日が迫っており、あっという間に感じられました。それでも日本とは全く異なる環境に身をおき、現地の生活を体験すると共にその国の視点で日本を捉えることができました。短いと思われる期間でも、現地での生活や学びはもちろん、日本にいるだけでは気づかないようなことも発見できる機会となると思います。筑波大学にはこのような研修プログラムも充実しているので、皆さんもぜひ利用してみてください！

06 ボランティア・インターンシップ体験記

@ Philippines

2列目右から2番目の青いキャップを身に着けているのが本人

胸を打たれた彼の夢

国際総合学類3年次　石井千遥

大学入学以前から「異文化」に関心がありました。自分と他者の差異を見て、自分の知らない価値観や生き方の多様性へと視野を広げられるのはとてもわくわくします。しかし、私にとって「異文化」に関する情報とは文献やインターネットから得られるものに限られていました。当時開発援助にも興味を持っていたので、実際に途上国という知らない世界を見てみようと思い、1年次の夏休み1週間だけですが、フィリピンのNGOのスタディツアーに参加しました。

受け入れ先はイロイロ市にあるLOOBというNGOです。そこでエシカル消費やフェアトレード、現地の人々の暮らしについて学びました。具体的には、1週間という短い期間でしたが、フェアトレード製品の生産者を訪問したり、ホストファミリーやフィリピンの子どもたちと交流することができました。

フェアトレード製品の生産者のひとりに紙ビーズの生産者がいました。彼は紙でビーズを作り、ブレスレットやネックレスなどのアクセサリーとして販売する生産者です。生産者が作った製品をLOOBが一定の価格で毎月購入しているため、彼がごみ山でウェイストピッカー（waste picker；ゴミの中から価値のあるものを探して売る者）としてお金を稼いでいた時よりも収入は安定しているようです。フェアトレードは、人の心にも影響を与えます。LOOBは毎月一定の量（かなりの量）の製品を彼に作るように依頼しますが、決められた量を毎月作ることはとても大変なことです。昔いた20人の紙ビーズの生産者もその業務の大変さから仕事を辞めてしまい、今では紙ビーズの担い手は彼ひとりになってしまいました。では、なぜ彼は紙ビーズの生産に熱意を持ち、仕事を続けられているのでしょうか。その理由を聞いてとても胸を打たれました。

彼の夢は〝自分の子どもたちみんなが学校を卒業すること〟。

その夢が達成されるまではしっかり働いて得たお金で家族を支えたいということでした。家族のためなら大変な仕事もやりぬくという強い思いを感じました。フィリピンで生産者やホストファミリーなどの人々と交流すると、家族愛をとても感じます。たとえ貧しくても家族と過ごせれば幸せだという価値観に触れ、幸せとは何かについて考えるきっかけになりました。人々の幸福観は実際に現地に足を運ぶからこそ学べることではないでしょうか。

これから大学生になるみなさんにはぜひ興味の幅を広げ、様々なことに挑戦してほしいです。少し勇気のいることでも成し遂げることで、世界がまた違って見えてくると思います。

@ Japan

失敗だらけのインターン!

国際総合学類3年次　加藤優弥

新歓に沸く大学1年次の春、希望すれば、国会議員の下で長期インターンをすることができると噂に聞いた私は、「なるほど、大学生になれば、そんなお偉いさんにも会えるようになるのか」と思った。これまで落ちた人はいないと聞いた選考を突破し、私は国会議員事務所のインター生として、夏休みを過ごすことになった。

政治の中心地である霞ヶ関で、国会議員の事務所の一員として働かせていただく機会を頂戴したのである。当然、私は期待感に満ちていたし、気分はパラメーターを振り切ってMAXであった。メッカに巡礼するかのような思いで迎えたインターンシップ初日は、そんな私の期待感を尽く打ち砕いた。決して、事務所の方に厳しく怒られたという訳ではない。むしろ、事務所の方は優しかった。私の声の小ささ、姿勢、敬語など、とにかく全てにおいて丁寧に指導して下さった。しかし、「事務所の一員となった今、私の至らなさが事務所の悪評に繋がり、議員の活動を阻害しうる」という旨の注意を受けた時、このインターンの責任の重さを初めて認識した。アルバイト経験すらない私というのは、肩書こそ大学生とはいえ、18歳の青二才であり、スーツに着られているだけの少年でしかなかった。

そんな私であっても、事務所の一員として議員の手足となり働いた。霞ヶ関では書類整理から会議への出席まで、議員の地元ではビラ配りからポスティングまで、本当に色んなことを体験させて頂いたが、私にとってもっとも貴重だったことは、議員さんや秘書さんと交わす何気ない会話であった。政治的なことについて議論した時には、私の意見に丁寧にコメントして下さったことを、今でも鮮明に覚えている。政界で働いている方から、意見を頂戴できる機会など、今後おそらくないであろう。

言うまでもなく、失敗続きのインターンであったが、それをバネにして、なんとか期待に応えようと奮闘し続けた甲斐もあり、精神的にも人間的にも成長させてくれた夏休みだったと思う。議員インターンから2年が過ぎた現在、私は別の長期インターンに参加している。失敗しても許される大学生のうちに、失敗し尽くし、その分成長してやるという気概で今回も応募したのだが、数か月前に撮った証明写真をあらためて見ると、やはりスーツが似合わず、まだ着られている状態である。しかし、2年前と比べれば、少しばかりは顔つきが変化している気がする。

大学生であっても、スーツを着て、社会人として責任を持って仕事を頂戴するインターンは、私を大きく成長させてくれたし、今回もそうであると信じている。

@ Nepal

3列目右から2番目が本人

現地を訪れなければならないわけ

国際総合学類3年次　吉田悠乃

私は国際NGO団体Habitat for Humanity（以下ハビタット）の筑波大学支部のLUZ（ルス）というサークルに所属しており、大学1年次の春休みにネパールの首都カトマンズから南東に約20キロのところにあるカブレへ住宅建築を目的としてサークル仲間15人と2週間行きました。

私たちが訪れた地域は2015年のネパールの首都付近で発生した大地震により建物は半壊状態になり、それを取り壊して新しく住宅を建て直しているところでした。携わった家のホームオーナー家族は旦那さんと奥さんと小さいお子さん2人の4人家族で、6、7畳ほどのトタンでできた仮住まいに暮らしていました。中をのぞかせてもらうと、薄暗く十分に寝る場所が確保されていないことは一目瞭然でした。住宅の周りも舗装されておらず移動する際は道が凸凹で、車はまるで遊園地のアトラクションの様に跳ね、切り立った山の道は細く緊張感がありました。

主なボランティアの活動は私たちが労働力としてレンガをリレー形式で運んだり、ハビタットが雇用する現地の大工さんの指導の下、床にはレンガをを敷き詰めたり、その後アスファルトをならしたりといったものです。大工さんは現地語しか喋れずコミュニケーションがスムーズではありませんでしたが、ジェスチャーとワードから意味を予測して作業を進めることができました。壁はレンガを積み重ね、隙間はモルタルで埋めました。アスファルトやモルタルは一から配合の比率を教えてもらい自分たちで作りました。砂やセメントなどを混ぜるときに必要な水は、水道が10日に1時間しか出ないため、タンクに溜めているものを使いました。初めて家を建てる作業に携わりましたが、作業をしながら丁寧に指導してくださったので一つ一つの工程の意味を理解できました。

ボランティア活動のほかに現地の文化を体験しました。現地の食べ方をまねて、ダルバートという1枚のプレートの上にライスやカレー、お豆がのっているものを素手で混ぜながら食べました。様々なものに触れるたびに除菌をしていたつもりでも慣れない私たちの中には食後におなかを壊す人もいました。色粉を顔に掛け合って春の訪れを祝うホーリー祭も体験しました。とてもインスタ映えするので日本にも取り入れたいと思いました。

また、現地の人との会話によると、ネパールは政府よりも企業のほうが強く、税金がきちんと徴収できていないそうです。外国企業も入ってこず、ネパールでの雇用がなかなか生まれず、出稼ぎに行く人が多いようです。2015年のネパール大地震のときも旦那さんがマレーシアに出稼ぎに行っていて家族離れ離れで心配だったとおしゃっていました。

メインの建築活動を通じて現地の住居問題の解消に寄与した一方で、ホームオーナーさんやコミュニティの人々や大工さんなどとの交流を通じて異文化に触れ、通訳できる人を介して会話をし、新たな考え方や価値観、人の温かさを感じました。私達はもちろん出発前にたくさん現地の情報を集めましたが、実際に行ってからのほうが情報量は多く脳裏に焼き付いています。ネパールの文化や暮らしを現地で体験できたことは人から聞いたり学んだりするよりも自分の考え方を豊かにしました。

@ Japan

2列目中央が本人

人と人が繋がる場作り

国際総合学類3年次　藤田祥也

多くの国際総合学類に入学した学生が想像するように、大学入学当初は「将来は海外で働きたい。」と漠然と考えていました。

この考えだけでなく、「国内で働く」という考えが出てきたのは、2019年の11月から働き始めたホステルでのアルバイトがきっかけでした。目の前で国内外問わず、多様なバックグラウンドを持った人々が新たな関係を作っていく様子を見たり、自分が作っていく中で、もっとこの空間に関わってみたいと感じ、選択肢をより強く意識するようになりました。

その後、2020年に入ってから自分自身の思いに正直になり、2020年4月から1年間の休学を許可していただきました。そして、休学開始の2020年4月からアルバイト先だったホステルはインターン先となっています。

そんな休学・インターンも、コロナウイルスの影響にさらされて、休業期間が発生してしまいました。しかし、休業前に滞在した人から出た意見をもとに部屋を過ごしやすくするにはどうしたらいいのか、使いにくいものはないか、これから変えていかないといけないものはなにかなど、アイディアを出し、実現のために動いていきました。意外にも、つながらないと思っていた大学生活で得てきた情報や感覚が、実際のアイディア出しやそのアイディアを深めていく中で活かされています。

休業期間を経て、現在では、ホステルも営業を再開し、訪れるゲストが心地よく過ごせるようにスタッフ同士で協力しながら、営業を行っています。

コロナ禍に置かれたことで、純粋に休学する以上に〝悩む〟時間が増えているような気がします。復学後は〝悩む〟を〝考える〟に変えられるように、知るべきこと・自分自身と向き合うべきことを見つめ、まとめなおす時間にするつもりです。また、オンライン/オフライン問わず、いろんな価値観に出会ってから、大学に戻りたいと思います。

これから大学生になる皆さんにも、たくさんの価値観や人々に出会える機会がたくさん転がっています。国際総合学類では、海外での経験を持った学生・先生方が多く在籍し、広い視野を得られることはもちろん、様々なことに挑戦できる環境があります。ぜひ、自分のやりたいと思ったことにはためらわずに、ぜひ、飛び込んでみてください。その経験はきっと多くの大学での学びにつながっていくと思います。

07 OB/OGからのメッセージ

「国際生」森下仁道の挑戦

国際総合学類に入学することを決めた高校生の自分は正しかった―ここから羽ばたいた今、そう断言できます。

学類4年の秋、僕は筑波大学蹴球部を卒団し、アフリカのザンビア共和国でプロサッカー選手としてのキャリアをスタートしました。トップリーグのFC MUZAとザンビア史上2人目のアジア人プレイヤーとして契約し、シーズンを闘い抜きました。

選手活動と並行して現地でパーソナルトレーナーとして起業したほか、アフリカ各国のNGOやスポーツ組織でサッカー指導者として延べ1000人の子供たちとサッカーを通して交流しました。

そうした活動が評価され、ご支援いただいた「トビタテ！留学JAPAN」報告会の全国大会で最優秀賞を、大学卒業時には「筑波大学校友会賞」という名誉ある賞をいただきました。

「一人で色々活動していてスゴいね」とよく言われます。しかし僕のあらゆる挑戦は、国際の仲間たちの協力なしには為し得なかったことです。

一つ一つの活動のアイディアからメールの添削に至るまで、その裏には仲間たちの支えがありました。

そもそも「アフリカでサッカーする」という発想でさえも、同期と宅飲みをしているときに出てきたものでした。

つまり何が言いたいのかというと、「スゴい」のは僕ではなく、僕の仲間であり、国際総合学類だということです。

エネルギッシュに挑戦しつづけていると、同等の熱量を持った仲間が集まります。その相乗効果で更に熱量が増すと、とんでもない機会やチャンスが巡ってくるようになります。その繰り返しがあったからこそ今の僕がいて、その土壌となったのが国際総合学類でした。

筑波大学の中でも特に国際総合学類には、個々の挑戦を受容する文化があります。そして、互いを本気で応援し合うことのできる仲間がいます。

この環境に身を置けることが、ここに入学する皆さんの最大の特権です。

2019年3月プロデビュー戦ザンビアにて（写真左）

森下仁道
2019年度卒（33期）
アフリカでプロサッカー選手

最後に、僕の今後の挑戦を宣言します。

まずはアフリカで再びプロサッカー選手として挑戦し、結果を出します。

第二に、現在立ち上げているオンライン英会話サービスや、携わっているプロジェクトを育てます。

第三に、成長の物語をYouTubeで発信し、応援してくれる仲間を増やしつづけます。

第四に、仲間たちと更にワクワクできることをして、世界に正のインパクトを与えつづけます。

そして、本田圭佑さんを超えます。

人間は、己が想像できないレベルの挑戦を達成することはできない―僕はそう信じています。だからこそ、僕は自分の夢に真剣に向き合い、行動しつづけるのです。

皆さんにはこれからどんな挑戦が待っているのでしょうか。

一足先に社会に出た国際総合学類の先輩として、応援しています。

そして、いつかどこかで巡り合い、ワクワクを共有する―そんな日が来ることを楽しみにしています。

（僕のこれからの物語を応援してくださる方はぜひYouTube「JinDo」のチャンネル登録をよろしくお願いします！）

ビジネスを通じて途上国開発に携わる仕事

私は現在、シンクタンクで働いています。中央・地方行政への提言や政策立案に関わることもありますが、仕事のほとんどは日本企業向けの調査・コンサルティング業務です。主な担当は、アジアの地方・農村部向けの新規事業立ち上げや市場開拓調査。これまで携わった案件のほとんどは、就業機会が限られており、識字率もそれほど高くない、いわゆる低所得層と呼ばれる人々をターゲット顧客としています。以前はBOP（Base of the Pyramidの略）ビジネスとも呼ばれていました。なお、低所得層とは購買力平価ベースで5,000～10,000ドルあたりが対象で、貧困層とは異なります。私の仕事は、日本企業の持つ技術力をベースに低所得層をニーズを満たす事業を考え、その事業が黒字化するようにマーケティング戦略を立てたり、資金調達計画を練ることです。BOPビジネスは「品質が悪いが安いものを単に売る」のではなく、「現地の人々が抱える貧困や医療などの問題を解決する製品・サービスを手の届く価格で提供する」ことがその本質です。そのため、新興国や途上国の農村に入り込んでニーズの聞き取り調査をしたり、現地の人と一緒に製品テストをすることも多く、一時は社内で「大抵いつもインドの農村にいる人」と呼ばれていました。

私が、ビジネスの貧困や栄養不足といった途上国の課題解決に果たす役割に興味持ったのは、国際総合時代です。大学3年生で入った開発経済学ゼミの先生が、企業と経済発展をテーマに取り上げたことがきっかけだったと思います。途上国の開発に貢献するビジネスを考えられる人になりたいと、卒業後はその当時日本で唯一「国際経営と国際開発」の専門授業とゼミを持っていた名古屋大学大学院に進学して、修士号を取りました。今の仕事はたまたま縁あって担当するようになりましたが、学生時代の想いを存分にぶつけられる仕事に巡り合ったことは本当にラッキーだと思っています。

2018年インド農村にて（写真右から2人目）

渡辺珠子
2000年卒（14期）
社会課題を解決するビジネス立上げの伴走

2015年に国連総会でSDGsが採択されて以降、BOPビジネスは企業のSDGsの取り組みの一部に包含されるようになりました。SDGsの観点を踏まえて、低所得層にモノやサービスを単に提供するだけでなく、製造や流通過程で温暖化や生態系の保全なども配慮されるようになったため、BOPビジネスをやり始めた頃よりも、事業を展開する上で考慮することがかなり増えています。その分手間のかかることや気苦労も多くなりましたが、次世代に豊かな社会を残すべく、手を抜かずに日々精進していきたいと思います。

国際総合学類の先には何が見える??

変化を恐れず、流れを楽しむ

「海外生活14年で7か国に住みました」と自己紹介するといかにも“国際”に響きますが、実際そんなキャリアなのは国際の先輩でもある夫（10期：臼井大祐）のほう。彼は海外事業所の“立ち上げ屋”で、各国でスタッフを雇い、事業を軌道に乗せたら次の国へ、の繰り返し。最初の赴任地イタリアの後、ドイツ、シンガポール、インド、２度目のシンガポール、つかの間の日本を挟んでイギリスへ。現在はアメリカでバイオベンチャーの事業統括をしています。私はといえば、そんな夫の怒涛の転勤にひたすらついて回る生活。流れ流れて現在はNPOで働いているものの、志を持って海外で貢献！という立派なものではありません。なので本来なら「ビジョンを持て」的な話をすべきところ、私からは「流されるもアリ」ということを伝えたいと思います。

新たな国への引っ越しは、毎回ゼロからのスタート。転勤や留学と違い、目的もなく漂着する私は、言語を学び、仕事を探しと、最初はもがき苦しみます。でもどんな国でも、半年ももがけば仕事や学ぶべきことが見つかるもの。毎回希望の職が見つかるわけではないけれど、これしかできない、と自分の可能性を制限しなければ、機会はいくらでも訪れます。例えばシンガポールではフリーペーパーの編集職、イギリスでは 40 代でデジタル・マーケティングの修士号を取得。未経験分野への挑戦を繰り返すことで、手持ちのスキルをアップグレードし、わらしべ長者の如く“将来”を切り拓いてきました。

もちろん、望み通りに道を進めれば最高です。でも、外的環境の変化はいつ起こるとも限りません。パンデミックでガラリと崩れ去った世界。思い描いていた未来が閉ざされた人もいるでしょう。そんな時は、流れに身を任せるのも一つの選択肢。大切なのは、流れ着いた先でどう生きるか。そこでしか見えない視点や、人との出会い、新たな自分も発見できるはず。変化をチャンスと捉え、どんな場所でも楽しめる適応力、そして学び続ける挑戦心さえあれば、恐れるものはありません。

2020年元旦、夫婦で南米パタゴニアにて（写真右）

内仲さなえ
1998年度卒（12期）
飢餓と肥満の解消に取り組むNPO法人
TABLE FOR TWO USA マーケティング

思い返せば、人生初の大きな環境変化は筑波でした。親元から寮生活へ。海外経験豊富な同級生の流暢な英語と、多様な価値観に圧倒される日々。この環境を生き延びた国際生であれば、もう素地はあるはずです。卒業後、非国際な職に進んだはずの私が今、６か国語を喋り、どんな国でも暮らしていけるのも筑波生活あっての賜物。何より国際で得た一番の財産は人です。今でも一時帰国で真っ先に会うのは筑波の仲間。どこの国にも卒業生がいて、世代を超えて繋がれる国際生の絆は本当に貴重。現役＆未来の国際生とも、世界の何処かで会える日を楽しみにしています！

『学び続けること』を学ぶ

私は2014年4月に国際総合学類に入学し、ゼミでは開発人類学を専攻してタンザニアでフィールドワークなどを行ってました。実際に現地を訪れてみて、外部からの開発協力に感謝する気持ちを抱きつつも、現地に根付いた生活様式や文化が変容していく姿に戸惑いを隠せない人々の姿があり、今後自分が開発協力に携わることになった時には“現地の目線に立った協力”を一つのテーマとして心掛けようと意識し始めました。

その後、2018年3月に大学を卒業し、その事業規模や扱う分野の幅の広さから日本で国際協力を実施する機関の中で一番インパクトを与えられると考えた国際協力機構（JICA）に新卒で入構しました。在学時にゼミでJICA事業をテーマに開発協力の在り方などを議論していたこともあり、採用面接の場で私は「JICAの考えが絶対とは思っておらず、現地の視点に立った”真”の協力を今後考えていきながら活動したい」と、今振り返れば少し生意気な発言をしましたが、その想いを受け止めてくれて無事に採用されました。以来、私はインドネシアとマレーシアの事業を担当しており、大学時代に学んだ視点を意識しながら現地政府や関係機関の人々と議論を重ねて新しい事業の形成に努めています。

今は電力セクターの事業を主に担当していますが、もちろんその分野のバックグラウンドがある訳ではないので、仕事を進めながら電力に関する本を読んだり、国内外における最新の取り組み事例を参照したりして担当セクターの勉強をする日々が続いています。また、将来的にはこれまで培った経験をアフリカ地域の開発協力に応用・発展させたいという想いがあり、英語圏以外でも活躍できるように休日や仕事終わりの時間を利用してフランス語の習得に励んでいます。

2018年IMF&世銀総会に出席した際の写真

野入陸矢
2017年度（32期）
国際協力事業の実施

国際総合学類生として文系/理系を問わず多様なバックグラウンドと価値観を持った人たちに囲まれ、日々刺激と新しい気づきを得ながら大学生活を送っていたことは今の自分の考えに大きく影響していると感じます。それぞれ異なる視点から物事を捉えている同期や先輩/後輩と話をすることで、自分の視野が広がり、新たな知識をどんどん吸収していこうという姿勢が身につきました。今現在、担当分野や言語の勉強ができているのも、その習慣があったからだと思います。もし学生の皆さんが、ぼんやりとした夢やビジョンを今持っていたとしたら、国際総合学類はそれを具体化してくれる、あるいは自分では気付けなかった新たなアプローチに気づかせてくれる貴重な場所だと思います。是非、一つの考え方のみにとらわれず、ご自身の新たな可能性も模索しながら夢の実現に向けて頑張ってください。

08 学生紹介

Student Introduction

コラム 2　青部屋と自習室

3K 棟入ってすぐにある青部屋は、2004 年頃までは壁一面が青く塗られていた（明日の EXECUTIVE, 2005）ことがその名の由来らしいです。昔から国際生の溜まり場になっているようで、私物とかサークルの荷物とかモノで溢れかえってます。だからクラ代や有志でよく片付けをしたなあと笑。国際生全員のメールボックスもあって、この明日エグも君の引き出しに入っているよ！自習室はその名の通り、自習をするための部屋ですが、2019 年に登場した比較的新しい部屋で（部屋自体はもともと存在した）、16 の座席と国際関連の図書がずらりと並んでいます。あ、図書の持ち出しは厳禁ですよ！

08 学生紹介

Student Introduction

コラム 3　サテ室とラウンジ

サテ室（サテライト室）には、大学の PC とプリンターが設置されており、これらは 24 時間利用可能である。ここでレポートを仕上げたり、資料をプリントして授業の準備をすることもできた。エアコンがあることから、年中快適な室温が維持されており、宿泊することもできる（できません）。いわば、スーパー銭湯のような部屋である。ラウンジには歴代の卒業論文と独立論文が厳重に保管されているが、鍵を借りれば閲覧は可能である。また、授業の空き時間の溜まり場になることもあれば、国際系サークルのミーティングがおこなわれることもある。残念ながら現在は、これらの部屋の使用が制限されているが、コロナが収束した暁には…。

08 学生紹介

Student Introduction

コラム 4 やどかり祭と雙峰祭

普段真面目な筑波大生なのに、急に彼らの髪の毛がカラフルになる時期がある。筑波大学の祭りの時期だ。春の「やどかり祭」は 1 年生が主体の祭りで、入学後初めての祭りだから特にうきうきした記憶がある。当日まで出店や舞台のパフォーマンスの準備をする毎日だったけど、それが案外楽しかったりする。確か国際の我々は初級ミクロの中間テストが前夜祭と重なっていて、テスト後の開放感で余計にテンションが爆上がってた（笑）。秋の学園祭「雙峰祭」で印象的だったのは、同期の子たちのサークルのパフォーマンス（ダンスとかバンドとか）。放課後に練習を頑張っていたのは知っていたけど、舞台に立った彼ら、超カッコ良かった。

学生紹介

Student Introduction

コラム 5 Formal Party

国際は留学する学生が多いので卒業パーティーも前倒しの前倒し。例年 2 年次の冬にやるものだから、もはや卒業パーティーとは意味合いがまったく違う ...。ま、そんなの毎年いわれているので気にしない。楽しければいいの！みんなドレスやスーツでビシッと決めてみると、「あれ、なんだみんな本当はかっこいいんじゃーん」と笑うのもあるある。話は止まらないわ、思い出ムービーでは涙ぐむわ、国際って仲良くて楽しいなぁ～と再確認した日だったなぁ。

コラム 6　コロナ下での授業とは

新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、授業形態も変化してきていているから例を挙げてみようかな。「水環境論」という授業では Microsoft Teams というツールを利用してオンラインでのディスカッションをおこなったよ。オンラインでやる分ディスカッションを円滑に進めるための工夫をして新鮮だったな。「情報科学Ⅱ」という授業では少人数でサテ室を使って対面でやったよ。Java 言語を利用して作成したゲームの発表を教室内で Zoom というツールで共有しながらおこなうことで、ソーシャルディスタンスをしっかりとれていたと思う！こんな感じで大学の授業も With コロナの形態をとっているから安心して受けることができるよ。

08

Student Introduction

明日のEXECUTIVEにおける編集後記

大学入学というのはある意味、旅に出るようなものである。その“ある意味”の中にとんなものが含まれているのか…それは入学してからのお楽しみとしよう。それを知るのも一つのアドベンチャーだ。しかし、旅に出る前にはいろいろと不安がつきものである。そこで今回は、先輩である私たちが見ているの景色を共有することで、少しでも旅に出てみたいと思ってくれるような冊子を作成したいと思った。表紙はこれから大学に入ろうとしている君の姿であり、裏表紙は旅から帰ってきたときの君の姿である。ウズウズしてきたでしょう？それでは、Bon Voyage!

（内野紀憲／表紙、教員紹介）

入学式で聞いたIMAGINE THE FUTUREも　　新歓期間の石の広場も
ゆかコンの舞台から見た景色も　　豊雌祭で見たみんなの笑顔も
泣いてもわからない授業も　　笑いが止まらない休み時間も
春の日の芝先も　　暗くて寒い３Kも
家みたいな青部屋も　　馬鹿みたいに並ぶコナクリも
ヒーヒー言った独論も　　楽しみ尽くした明日エゲ編集も
大人になって読み返したとき、　　思い出して笑えたらいいよね！

（内野真紀／留学体験記、ＯＢ・ＯＧメッセージ）

カリキュラム紹介ト分野紹介ノ頁ハ、インタビュウニ答ヘテクレタ同期ノ協力ガ不可欠デアッタ。此ノ場デ厚ク御礼ヲ申シ上ゲタヒ。ト、後書キトシテハ何トモ粋ナ文章ヲ並ベタヒ処ダガ、其様事ニ神経ヲ尖ラセル必要モ無ヒ処ガ、我ガ学類ノ良キ処デアル。実際、彼等ハ嫌ナ顔一ツセズニ二ツ返事デ、筆者ノインタビュウノオ願ヒニ応ヘテクレタ。ダガ、私ガ此処デ独調シタト事ハ、我ガ同期ガ如何ニ親密タルヤト云フ事デハ無ク、我ガ同期ガ如何ニ勤勉デアルカト云フ事ダ。所謂「爆爆国際」ト云フ噂ハ、大学生活ノ四年間ヲ娯楽ダケニ費ヤシテキル様ナ印象ヲ与ヘルガ、其レハ誤ッタ認識デアル。皆、目的意識ヲ持ッテ授業ヲ受ケ、図書館ニ通ヒ、報告書ヤ試験ヲ無難ニ熟シテシマフ。チャラポランニ見ヘテ、実ハ驚嘆スル程ニ真面目ナ性格ヲシテヰル。“Work Hard, Play Hard”ト、正ニ斯ウ云フ事デアロウ。成程、我ガ学類ノ卒業生、先輩方ガ、“EXECUTIVE”ニ成ッテヰル訳デアル。

サテ、何十年カ先ノ話デアル。我ガ同期カラ“EXECUTIVE”ト呼バレルニ相応シヒ人間ハ生マレテキルデアロウカ。筆者ハ此ノ問ヒニ対シテ極メテ楽観的ナ答ヘヲ用意シテヰル。学生紹介ノ頁ニ、皆ノ将来ノ夢ガ記サレテヰルガ、例外無ク全テノ夢ガ実現サレテヰル様ナ気ガシテヰル。恐ラク、或ル人ハ本当ニ世界征服ヲ成シ遂ゲルデアロウシ、一方デ或ル人ハ世界平和ヲ現実ノ物トシテクレテヰル筈。我ガ学類ノ勤勉サハ、曾遊人間ヲ輩出シ続ケルデアロウ。

（加藤優弥／カリキュラム紹介、分野紹介）

たくさんの人の協力で完成しました、ありがとうございました。

（青歩歌／編集委員長、学類長挨拶、ボランティア・インターン）

読んでくれてありがとうございます。明日のEXECUTIVE 2021の発行にあたっては、色々ありましたが、ここでは裏話を教えてあげようと思います。

一、「編集後記」というながら、実はまだ編集の途中であり、期日内に終わるのかも怪しい状況です。

二、はじめのミーティングでコンセプトを決めましたが、みんな無視してつくりました。ぶっちゃけ正確には覚えてないし、決まったかすら怪しいです。

三、そもそもなんで「EXECUTIVE」なのか誰も知らないし、創刊号みてもなにも言及がなかったので、その意味はみなさんの創造だ、ということでお願いします。

以上が裏話的実話になるんですが、ここにはコンプライアンス的に掲載できないこともたくさんあると思われるので、気になる人は…って感じです！

（三浦美起／表紙、学生紹介、CAMPUS LIFE、裏表紙）

The EXECUTIVE
エグゼクティブ

Special Thanks
山下凜太朗（表紙，裏表紙ほか）

CAMPUS LIFE
国際総合学類
College of International Studies

CHOCOLATE BANANA